

令和5年度第2回 三島市子ども・子育て会議 議事録

業務名	第3期 三島市子ども・子育て支援事業計画策定支援業務
日時	令和6年3月25日(月) 14:00~16:00
会場	三島市役所 大社町別館1階 防災研修室
出席者	<p><令和5年度 子ども・子育て会議委員>13名出席(欠席6名) (会長)山本 睦委員 (副会長)杉村 太陽委員 岩清水 伴美委員 飯田 志帆委員 青野 芙美委員 山田 将隆委員 加藤 保委員 越膳 良子委員 森島 チエ子委員 菅田 浩代委員 小早川 宏子委員 鈴木 真委員 森 万紗子委員</p> <p><事務局>8名 社会福祉部 部長 水口 国康 健康づくり課 課長 浅見 徹哉 福祉総務課 課長 高田 紀彦 子育て支援課 課長 渡邊 由美 係長 朝木 紀智 主査 遠藤 和哉 発達支援課 課長 杉山 克博 子ども保育課 課長 渡邊 力 教育総務課 課長 杉山 慎太郎 学校教育課 課長 中村 雅志</p> <p><傍聴人>0名</p> <p><委託業者(株式会社ぎょうせい)>4名</p>
次第	1 開会 2 挨拶 3 報告及び議題 (報告)「三島市子どもの生活実態調査」の実績報告について (議題)子ども・子育てに関するアンケート調査について 4 その他 5 閉会

配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・令和5年度 子ども・子育て会議委員名簿 ・令和5年度第1回三島市子ども・子育て会議 座席表 ・三島市子どもの生活実態調査結果報告書（概要） 【第2回三島市子ども・子育て会議用】（資料1） ・第3期三島市子ども子育て支援事業計画策定にあたって（資料2） ・第2期子ども子育てに関するアンケート調査票<小学生票>【参考用資料】当日机上配付
------	---

略称略

協議内容（要旨）	
1 開会	
2 挨拶 水口社会福祉部長より挨拶 事務局の紹介 山本会長より挨拶	
3 報告及び議題 (1) (報告)「三島市子どもの生活実態調査」の実績報告について	
	<p>事務局より「三島市子どもの生活実態調査結果報告書（概要）【第2回三島市子ども・子育て会議用】（資料1）」に沿って説明</p> <p>(会 長) ただいまの事務局からの説明について、何か意見はありますか。</p> <p>(委 員) 私立の保育園、幼稚園も多いですが、調査対象から外した理由は何でしょうか。</p> <p>(事 務 局) このアンケートは傾向を把握するためのものであり、調査期間も短かったため、私立の保育園、幼稚園には行いませんでした。</p> <p>(委 員) 私立の保育園、幼稚園も加えれば結果は多少異なってくるのではないのでしょうか。</p> <p>(事 務 局) 公立と民間では同じ形態（年齢、生活圏等）を考えれば、大きくは異なるのではないかと考えました。</p> <p>(委 員) 三島市子どもの生活実態調査結果報告書（概要）の2ページ目にあるひっ迫の項目は5項目のうち1項目でもあたれば該当ということでしょうか。それとも、複数該当するというのでしょうか。説明はどこかにありますか。</p>

協議内容（要旨）

- （事務局）1項目でもあれば該当といたします。分かりにくくて申し訳ございませんが、2ページの注釈文中に記載しています。
- （委員）一般層、周辺層、困窮層が全体の中で何%なのか、一目でわかるものがありますか。あった方がよいと思います。
- （事務局）前回の調査結果報告書では数値を掲載していました。しかし、数量だけにフォーカスされてしまうことを懸念し、慎重に対応することとしています。そのため、本委員会の資料の概要版には掲載していません。最終的な報告書には載せ方も含めて検討精査してまいります。
- （委員）団体アンケート調査結果の3ページにある「家庭訪問」が、具体的にどのような支援をしたのか分かりません。家庭訪問は手段であって支援内容ではないため、具体的な支援内容が分かるようにしていただきたいです。
- （事務局）「家庭訪問」の訪問内容まで把握する設問設計ではないため、具体的な支援内容を調査結果だけで把握することはできません。しかし、同調査では、回答者の所属先や担当者、連絡先を記入していただく欄を設けています。回答者への追跡ヒアリングは可能であることから、事務局内で検討したいと思います。
- （委員）困難層、周辺層、一般層の中で比較を行うことが本調査の目的でしょうか。それとも、他自治体と比較をして三島市の位置づけがどの程度なのか把握するのでしょうか。
- （事務局）子どもの生活実態調査は、都道府県及び各自治体で広く実施されていますが、調査票の設計が都道府県や各自治体によって異なるため単純に比較はできません。今回のアンケート調査は前回の設問内容や方法を踏襲していますが、全国や近隣他市町と比較ができるものではなく、前回の調査結果との比較による経年変化について分析を行います。

（2）（議題）子ども・子育てに関するアンケート調査について

事務局より「第3期三島市子ども子育て支援事業計画策定にあたって（資料2）」に沿って説明

- （会長）ただいまの事務局からの説明について、何か意見はありますか。
- （会長）手順の確認です。スケジュールで9月に骨子案となっていますが、策定組織の主体はどこになるのでしょうか。
- （事務局）三島市になります。
- （会長）1つの部署が単独で行うのでしょうか。それとも、部署同士が連携する

協議内容（要旨）

のでしょうか。

（事務局）庁内検討委員会を立ち上げ、検討してまいります。

（会長）静岡県は国からのものをトップダウンで市町村に渡す傾向があるように感じます。逆に言えば市町村が頑張らなければいけません。何かアイデアは今あるのでしょうか。

（社会福祉部長）効果的な評価方法には活動指標と成果指標がありますが、こちらは国の方針に沿った資料作成になっています。その他の評価方法について別資料を作成することは可能ですが、効果については、他市町でもあまり公表しておりません。また、優先度についてはなかなか順番をつけるのは難しいところがありますが、今後検討したいと思います。

（会長）三島市の総合計画では、優先度の記載があったので、子育ての計画にもそのイメージがありました。事業が効果的かどうかについて、例えば、人が来ている、来ていないなどで判断するのはあまり適切ではないように思います。ただ人が集まればいいという問題でもないように思います。

（会長）沼津市は、人員の不足から幼稚園の教員免許で小学校配置というところに着手しています。自分も保育者、管理者にインタビューを行っています。その結果、育休から戻った時のフォローが（保育者）さんに全くない。保育従事者自身の子育てを周囲がフォローしなければ保育者としての仕事も続けられない。といった実態が見えてきました。

時短と言われても幼児をかかえて時短もできません。そういった知見を持った人を集めてアイデアを出してもらったりしないと、民間活力を組み込めるようにするのではないかと思います。

（委員）自分も保育士で、家庭の事情で親世代の支援もなく保育士をやめた経緯があります。自分が頑張るだけではうまくできません。子どもが小さいうちは仕事と保育の両立は難しいと思います。しかし、子どもが大きくなった後に保育士業務に戻りたいと思っても年齢規制などもあり、それも難しい状況です。せめて、年齢制限35歳までを取り外すなど、子育てが落ち着いてから正規に戻りやすい環境を作ってもらえると思います。

（委員）ライフステージ別で不登校、居場所の支援が掲載されています。学校だけではフォローしきれないところがあります。福祉や経済的な支援など多面的な視点を持って取り組んでいくべきだと感じました。

（委員）今回は、このアンケート調査とは別に、各施設にアンケート調査を実施してはいかがでしょうか。各園での貧困状況などさらにアンケート調査を実施するのもいいのかもしれないと思いました。保育士の働き方について

協議内容（要旨）

て、早番・遅番など融通を持つことで調整していければと思います。子育てを終えた方で、資格のない方でも資格を取得すれば遅番の補助などができます。少しなら働ける人などを雇う助成があるとよいと思います。

（事務局）国にはありますが、市ではできていません。

（委員）経済的な理由ではなく、保護者の方の相談場所がない、疾病を抱えていて子育てしにくいなど様々な困窮があり、いろいろな部署が力を合わせてそうした方々への支援が推進される計画書になればと思います。

（事務局）家庭児童相談室、健康づくり課の保健師などで各家庭への相談支援を行っています。様々な部署が力を合わせて家庭の負担軽減になる支援・仕組みづくりを考えています。

（委員）先ほどのアンケート調査結果から、保護者の就労意欲についても把握できるのではないかと考えています。かつては、幼稚園に子どもを預ける人のほとんどが働いてなかったと思いますが、今はほとんどの人が預かり保育を利用して就労しています。本園も預かり保育を18時まで行っていますが、18時以降も利用を希望する親が増えており、保育所のニーズがどんどん増えているように思います。また、本園では時短勤務も設けて職員の負担軽減を図っています。何より三島市の子どもを増やさなければ、と市長とお話したこともありました。

（委員）実態調査結果では、高校進学に後ろ向きになる子どもが少なからずいることにショックを受けました。子どもたちが未来に希望を持って子どもたちを取りこぼさないようにどうしたらいいのか、大人の一人として考え続けたいと思います。

（委員）交通関係の労働組合に携わっていますが、盆暮れ関係なく、昼夜なく働いています。しかし、若者は土日に休みたい。時間にとらわれない多種多様な働き方がこれから必要です。移動の権利というものが調査でも抜けています。困窮世帯は移動弱者です。本会議では移動の権利についても協議していただきたいと思います。

（委員）うちの職員面談では病児保育の関係について、多く意見がありました。沼津市では病児保育に取り組んでいる園があります。子どもが発熱すると引き取りにいかなければならない、発熱していたら預けられない、という状況です。発熱してしまったら診察しなければならず、午前中に出社できず昼過ぎになってしまい半日しか仕事ができなくなってしまいます。

（委員）前回のアンケート調査票をみると子どもが伸び伸びと遊べる公園が整備されているか、という設問がありました。このアンケート調査結果をも

協議内容（要旨）

とにどのように改善されたのかをうかがいたいです。親同士が集まる場所がほしいなどの設問もありました。市で暮らしていて公園を巡ってみました。公園の遊具が十分ではないように感じました。他の地域の、遊具が多くある、珍しい遊具がある公園にはたくさんの子育て世帯が集まっています。市のホームページをみても公園に関する掲載内容が不十分なように感じられました。公園の設置や駐車場の状況などを掲載してもよいのではないかと思います。また、子どもに接する時間がどれくらいあるのかを把握する設問があったと思いますが、どうしたら子どもと接する時間が増えるかを聞く前向きな方向の内容にした方が、回答者の気持ちも変わっていくのかと思います。

（事務局）市ホームページに掲載されている公園の内容について、担当課と共有を図り改善に向けて取り組みます。

（委員）公園について、使っているお母さんなどから写真をもったらどうでしょうか。

（委員）子育て支援センターも、おもちゃがないと走り回るだけになっていて、他のまちの支援センターを利用するようになってしまいます。子どもが発達支援を利用していますが、アンケート調査ではグレーゾーンの子どもへの支援についての設問がないように感じられます。そうした内容を明記していただけたらと思います。

（委員）こども大綱の関係についての要望です。6ページの中でこども大綱の目標・指標があります。三島市が考える子どもが真ん中にある状況が何か、イメージを示して、その方向に向けて進んでいるのだということが分かればよいと思います。子どもが生活に満足している、の目標がありますが、三島市では具体的にどのようなことが生活に満足できている状況とするのか、検討する必要があると思います。

こども家庭センターが開設に向けて進められています。縦割りにならないようにと考えていることは素晴らしいですが、いっしょになったからと言ってそれだけではなく、質が重要であり、1つに向かっていくことが重要です。ライフステージごとの切れ目のない支援も大切ですが、担当部署でも切れ目のない連携が必要だと思います。

（委員）三島市の園長会でも、“気になる子ども”は取り上げられます。園長会でも年々増えているデータがあります。保育園やこども園では1人の職員が複数の子どもの面倒を見なければなりません。 “気になる子ども”には1人の職員が専属で見なければなりません。少子化でも職員の確保は困難な状況です。園の運営面では職員確保が重要な問題となっています。3年間、コロナ禍で様々な制約があり、ある研修会の講師か

協議内容（要旨）

ら、コロナ禍を経験した子どもたちがこれからどのような問題を抱えるのか、検討していく必要があるとも聞きました。本会議ではこうした内容についても協議していければと思います。

（事務局）病児保育では、コロナ禍ではあずかり数も減りましたが、今年はインフルエンザの大流行で利用は高まりました。市内で実施している2か所では、定員の中では断ることはありませんが、預けやすい、利用しやすい、施設となるよう調整します。

（会長）事務局が本日の意見の反映に心がけることを希望します。

4 その他

事務局より、委員任期を計画完成の来年令和7年3月まで延長したいことについて、委員へ承認を要望。

— 委員一同挙手により承認 —

（事務局）来年度の会議は3回を予定しています。また、子ども・子育てアンケート内容は素案を各位に郵送するので、ご意見等いただきたいと思えます。

5 閉会

以上